

2019年度 第2回レフェリーアカデミーを終えて

氏名 (ペア)	島村 奈央美	所 属	福岡県
---------	--------	-----	-----

期 日	2019年6月22日(土)23(日)
会 場	味の素ナショナルトレーニングセンター
名 称	2019年度全日本大会担当審判員研修会
研修内容	2019年度全日本大会担当審判員研修会に受講生として参加する
第2回 テーマ	自らのレフェリングを振り返り、競技規則の理解を深める。 審判員の心得10か条に真撃に向きあう。

課 題 ・ 反 省

(1) 審判員の心得10か条について自身が設定した各項目を振り返る。

①リーダーシップ

様々な活動において率先して声かけをしたり、準備をしたりする。

◇会場の準備や活動の準備はアカデミー生で分担、協力して取り組むことができた。活動においてシャトルラン時は声かけをすることはできたが、それ以外の場面ではできていなかった。全体でのグループ活動はなかったが、自分から行動できる場面をもっと探せたのではないと思う。

②誠実さ

講義や先輩方の話をしっかり聞き、自分に足りないものを考え、必要なことはメモを取る。

◇各講義において自分に足りないものを考えながら話を聞くことができた。判断基準、パッシブプレーについて再度、確認しなければならないと感じた。とくに8条に関する整理が不十分であるため、事前課題での映像も見直し、様々な映像を見て研究する。

③ルールに関する知識

筆記試験、オープンブック試験等で合格に達する。

◇試験については合格点に達することができた。しかし、8条に関する項目は整理が必要だと感じた。とくにビデオテストでは瞬時の判断が必要であったが迷うことがあり、自分のレフェリングの課題であると感じた。時間、得点、場面・局面の理解が必要であり、レフェリングの機会とともに映像を見たり、試合観戦したりする機会を増やす。

④冷静さ

時間がなく慌ただしい時でも、落ち着いて考え行動する。

◇昨年に続いての参加であったので、次のことを考えて落ち着いて行動することができた。場所や状況が変わっても落ち着いて考えて行動ができるように心掛ける。

⑤正しい判断

何をしなければならないのか優先順位をよく考え、発言・行動する。

◇その場に適した行動ができたと思う。レフェリングでは、よく観察し、発展性があるかどうかの見極めや、カテゴリーに適した判定が求められる。日頃からよく考えて行動・発言をしていく。

⑥身体上の適正

一番良い状態で研修に参加できるように、体調管理をしっかりする。

また、シャトルランにおいて合格に達する。

◇シャトルランでは目標数走りきることができた。安定して走れるように、継続してトレーニングを行っていく。

⑦ユーモアのセンス

場に適した接し方、コミュニケーションの取り方を考える。

◇どのような場においても、柔軟にコミュニケーションが取れるように心掛ける。

⑧勇気

気になることやわからないことはそのままにせず、周りの方に聞く。

◇全体の場で発言することはなかったが、気になることは周りの方と共有したり、話したりすることができた。⑦と同様に柔軟にコミュニケーションが取れるように心掛ける。

⑨協調性

集団の一員としての自覚を持ち、まわりに気配り心配りを行う。

◇集団の一員として、意欲的に研修に参加することができた。また、協会の方々のご支援、ご協力があることへの感謝を忘れずに、各大会・研修に取り組んでいく。

⑩仲間意識

多くの方とコミュニケーションを取り、互いに意識を高め合う。

また、シャトルランでは声を掛け合い、取り組んでいく。

◇声を掛け合いシャトルランテストに臨むことができた。全員が走り終えた後は、拍手で称えあっており、各大会においても大切にしていきたい。

今回振り返った 10 か条をコート上、レフェリングに繋げていきたいと思う。提示されている 10 か条と合わせて自分なりの 10 か条を追求し、実行できるように努力していく。

(2) 今後の大会に向けて研修を受けて自身の課題を考える。

今回の研修を受けて、第 8 条の理解が不足していると感じた。また、シャトルランテストで目標数を達成したが、夏の大会で 2 試合担当するためには、もっと余裕をもって走り切れる体力・走力が必要と感じた。

第 1 回のアカデミーにおいても A 級としての立ち振る舞いに加え、A 級だからこその判定、ゲーム管理が課題であった。許される行為と許されない行為、許されない行為における警告、退場、失格など正しい判断基準をしっかりと持たなければならない。攻撃側の違反を見逃すと防御側の違反として判定してしまうことが多い。身体接触において、防御側プレイヤーがどうなのかをよく見なければならず、レフェリーの視線は常に防御側プレイヤーの位置を的確に捉え、それに対する攻撃側プレイヤーの動きを的確に観察しなければならない。ゴールエリア際の判定においても同様に、防御側プレイヤーの位置を先に確認することが必要となる。ビデオテストにおいても迷ってしまう映像があったため、繰り返し映像を見て、引き出しを増やし、実際のレフェリングにおいて瞬時に適切な判定ができるようにする。ただ、映像を見るのではなく、レフェリーの立ち位置を確認したり、事前課題のように似たような現象を研究したり、競技規則を熟読、書き出したりして理解を深めていく。

直近の大会は 7 月が中体連なので、3 年生が最後の大会でベストなパフォーマンスができるように、自分もトレーニングをしっかりと積んで臨む。とくにランメニューを計画的に取り組み、走る時はフォームが崩れないように意識してトレーニングをする。8 月には九州ブロック国体予選があるので、各県代表、実業団チームの中で、選手に走り負けしない体力・走力を身につけるために、同様にしっかりとトレーニングを重ねていく。

今回研修に参加するにあたり、多くの方々の支えやご協力があることを忘れず、感謝の気持ちをもって審判活動に取り組んでいきたいとします。また、アカデミー生としての自覚を持ち、常に学ぶ姿勢を大切に技術・人間性の向上の努め、地域の活動にしっかりと貢献していきたいとします。